

第5回資源管理方針に関する検討会の 指摘事項について

令和7年12月12日(金)

資源管理方針に関する検討会
～第6回スケトウダラ太平洋系群～

水産庁

1. 第5回資源管理方針に関する検討会で整理された指摘事項

- (1) TACを16万トンで固定する際、2028年が固定できない理由を詳細に説明する。
- (2) TACを15～16万トンの間で1,000トン単位で固定する漁獲シナリオを検討する。
- (3) 大量来遊ルール要件(時期・漁獲実績のトリガー・追加量)の見直しを検討する。
- (4) TACの未利用分を繰り越す漁獲シナリオについて、想定される追加後のTAC及び条件を検討する。
- (5) 次回会合の前の事前説明(早目早目の現場への情報共有)。

2. 指摘事項に関する対応の方向

項目	対応の方向
TACを16万トンで固定する際、2028年が固定できない理由の説明	研究機関から提示された資料4－2に説明を掲載。
TACを15～16万トンの間で1,000トン単位で固定する漁獲シナリオの検討	研究機関から提示された漁獲シナリオの案にTACを固定するルールを導入した場合の将来予測の試算結果を資料4－2に掲載。
大量来遊ルールの要件(時期・漁獲実績のトリガー・追加量)の見直し検討	北海道庁の協力も得ながら検討作業を行う(資料4－3に掲載)。
TACの未利用分を繰り越す漁獲シナリオについて、想定される追加後のTAC及び条件の検討	未利用分を繰り越す漁獲シナリオについて、想定される追加後のTAC及び条件の検討結果を資料4－3に掲載。
次回会合開催前に現場への情報共有	各地域において事前説明/意見交換会を11月27日(木)以降実施。